

すべて神の栄光 のために



2026年8月1日 第5課



(1 コリント 10:31 口語訳)

だから、飲むにも食べるにも、
また何事をするにも、すべて
神の栄光のために
すべきである。



(1 コリント 10:31 口語訳)

だから、あなたがたは食べる
にしろ飲むにしろ、何をする
にしても、すべて神の
栄光を現すために
しなさい。

1 コリント第7章から、パウロはコリントの信徒たちが手紙で送ってきた一連の質問に答えることに専念している（1コリ7:1a）。

このため、第8章から第10章までは主に偶像崇拜について扱っているものの、パウロは、この特定の罪とは一見関係のないいくつかの話題をその間に織り交ぜている。

しかし、彼は各テーマに共通するテーマ——愛と相互尊重——を取り入れようとしており、それこそが教会を一致へと導くべきものである。

この考えと併せて、パウロは、教会での活動であれ、私生活であれ、あらゆることを神の栄光のために行う必要性を強調しています。



1 コリント8章

知識と愛

(偶像に捧げられた食物)

1 コリント9章

無私的愛

(パウロが放棄した権利)

1 コリント 10:1-13

過去から学ぶ

(偶像礼拝を警戒する)

1 コリント 10:14-22

偶像礼拝に対する警告

(主の杯と悪魔の杯)

1 コリント 10:23-33

偶像礼拝を克服する

(すべてことを神の栄光のためにする)

知識と愛

1 コリ 8 章 (偶像に捧げられた食物)

しかし、知識は人を誇らせ、愛は人の徳を高める。(1 コリント 8:1b)

パウロは教会を「強い者」と「弱い者」という二つのグループに「分け」ています。

1 コリ 8:4-7a

強い者は、偶像など何の意味もないことを理解している。なぜなら、真の神はただひとりしかいないからだ。

弱い者たちは、この点をまだ理解していない。

1 コリ 8:7b

信仰の堅い人々は、偶像に捧げられた肉を食べます。なぜなら、偶像が食べ物を汚すことはない知っているからです。

弱い人たちは、その肉を食べると罪を犯すのだと信じている。

しかし、強い者は、自分の知識や行いによって、弱い者を罪に誘い、つまずかせる恐れがある(1 コリ 8:10)。兄弟への愛から、強い者は自制しなければならない(1 コリ 8:11-13)。

知識が(成長の途上にある)「弱い」兄弟にとってつまずきの原因となりうる場合、クリスチャンは知識よりも愛を優先すべきです。

パウロは、愛がなければ知識は悪いものになりかねないと論じています（Ⅰコリント8章）。

8:1 偶像に供えられた肉について言えば、「我々は皆、知識を持っている」ということは確かです。ただ、知識は人を高ぶらせるが、愛は造り上げる。**8:2** 自分は何か知っていると思う人がいたら、その人は、知らねばならぬことをまだ知らないのです。**8:3** しかし、神を愛する人がいれば、その人は神に知られているのです。**8:4** そこで、偶像に供えられた肉を食べることについてですが、世の中に偶像の神などはなく、また、唯一の神以外にいかなる神もないことを、わたしたちは知っています。**8:5** 現に多くの神々、多くの主がいると思われているように、たとえ天や地に神々と呼ばれるものがあるとしても、**8:6** わたしたちにとっては、唯一の神、父である神がおられ、万物はこの神から出、わたしたちはこの神へ帰って行くのです。また、唯一の主、イエス・キリストがおられ、万物はこの主によって存在し、わたしたちもこの主によって存在しているのです。**8:7** しかし、この知識がだれにでもあるわけではありません。ある人たちは、今までの偶像になじんできた習慣にとらわれて、肉を食べる際に、それが偶像に供えられた肉だということが念頭から去らず、良心が弱いために汚されるのです。**8:8** わたしたちを神のもとに導くのは、食物ではありません。食べないからといって、何かを失うわけではなく、食べたからといって、何かを得るわけではありません。**8:9** ただ、あなたがたのこの自由な態度が、弱い人々を罪に誘うことにならないように、気をつけなさい。**8:10** 知識を持っているあなたが偶像の神殿で食事の席に着いているのを、だれかが見ると、その人は弱いのに、その良心が強められて、偶像に供えられたものを食べるようにならないだろうか。**8:11** そうなると、あなたの知識によって、弱い人が滅びてしまいます。その兄弟のためにもキリストが死んでくださったのです。**8:12** このようにあなたがたが、兄弟たちに対して罪を犯し、彼らの弱い良心を傷つけるのは、キリストに対して罪を犯すことなのです。**8:13** それだから、食物のことがわたしの兄弟をつまずかせるくらいなら、兄弟をつまずかせないために、わたしは今後決して肉を口にしません。

愛を伴わない知識が、実際にどのような状況下で悪いものとみなされるのでしょうか。

無私の愛

1 コリ 9章 (パウロが放棄した権利)

それと同様に、主は、福音を宣べ伝えている者たちが福音によって生活すべきことを、定められたのである。

(1 コリント 9:14)

パウロは、弱い者たちへの愛から、少なくとも三つの権利を放棄しました。



* 会衆から食事を提供される権利 (1 コリ 9:4)

➤ パウロは、他の使徒たちがそうしていたように、自分が奉仕している教会から支援を受けるとする使徒としての権利を放棄した。



* 妻に付き添ってもらう権利 (1コリ9:5)

➤ 使徒たちの間では、妻を連れて旅をし、妻に世話をさせ、宣教活動を支えてもらうのが一般的な慣習でした。妻も、夫と同様に、教会から援助してもらう権利があったでしょう。



* 一般的な維持管理業務を行わない権利 (1コリ 9:6)

➤ パウロは、観客を利用しようとしていると思われぬように、また、無私無欲な姿勢を彼らに示すために、自分の力で生計を立てたいと考えていた。

イエスは、福音を宣べ伝える者は福音によって生計を立てるべきであることを明確に示されましたが、パウロもバルナバも、信者たちの妨げにならないようにと、自ら進んでこの権利を放棄しました (1コリ9:12-14、ルカ10:7)。

たとえ自分に当然の権利があるとしても、
主のためにもっと効果的な証し人となるためには、あえて手放したほうがよいものは何でしょうか。

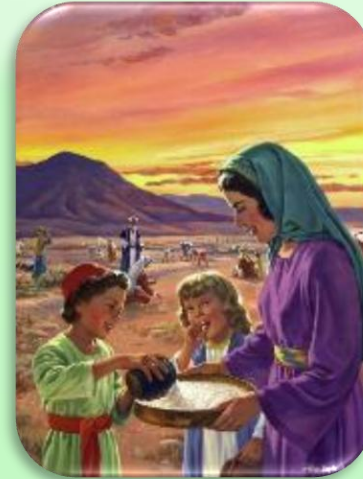
過去から学ぶ教訓

1 コリ 10:1-13 (偶像崇拜に対する警告)

だから、彼らの中のある者たちのように、偶像礼拝者になってはならない。すなわち、「民は座して飲み食いをし、また立って踊り戯れた」と書いてある。(1 コリント 10:7)

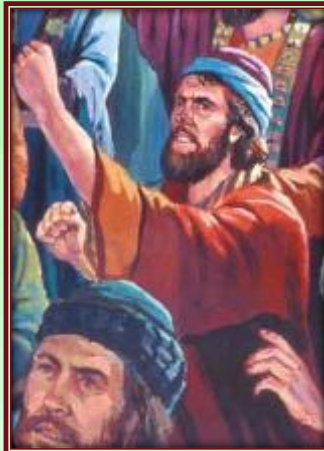
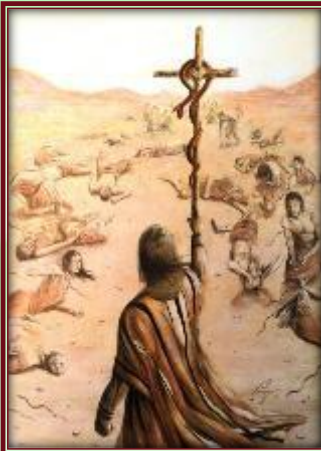
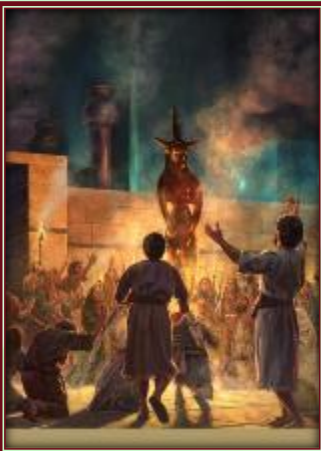
出エジプトの体験は、靈的な観点から理解すれば、私たち自身の体験と重なるものです。海を渡った出来事は、私たちの洗礼の契約に似ています（1 コリ 10:1-2）。

彼らが砂漠で摂った食べ物や飲み物は、私たちが聖餐式に参加し、靈的にイエスの体と血を食し、飲むことと同じです（1 コリ 10:3-4）。



注意せよ！イスラエルの民は、その経験にもかかわらず、偶像崇拜や不道德といった重大な罪を犯してしまった。私たちにも同じことが起こらないようにしましょう！（1 コリ 10:5-10）。

そこで、使徒はこの節を、次のような力強い助言をもって締めくくっています。「ですから、自分がしっかりと立っていると思う人は、倒れないように気をつけなさい」（1 コリ 10:12）。



神は、「耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます」〔口語訳「耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さる」〕(Ⅰコリ**10:13**)。

それなのに、なぜ私たちは、
いまだに罪に陥りやすいのでしょうか。

偶像礼拝に対する警告

1 コリント 10:14-22 (主の杯と悪魔の杯)

それだから、愛する者たちよ。偶像礼拝を避けなさい。(1 コリント 10:14)

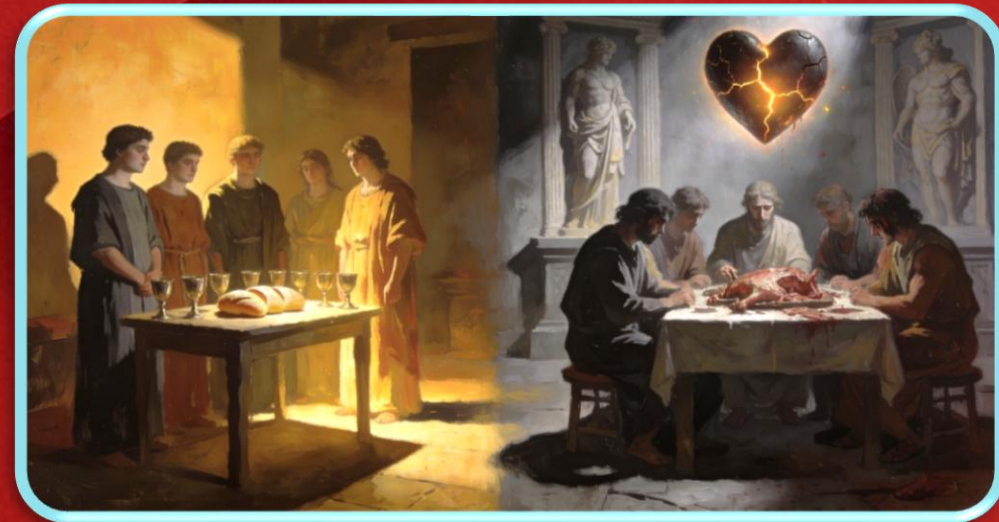


もし偶像に捧げられた食物を何の懸念もなく食べられるのであれば、なぜパウロは1コリント10：20で、それを避けるよう勧めているように見えるのでしょうか。

自宅で何ら罪悪感を抱くことなく肉を食べるのと、偶像が崇拝される公の祝祭の場でそうするのは、全く別のことです。そのような祝祭に参加することは、信者が自らの信仰を放棄し、偶像崇拝を受け入れることを意味します。

聖餐にあずかることによって、私たちはキリストの体（教会）の一部となりますが、偶像崇拝の儀式にあずかることによって、私たちは悪霊と関わりを持つことになります（1コリ 10：16-20）。

イエスをほめたたえる聖餐の杯をあおぎながら、同時に悪霊をほめたたえる杯をあおぐことはできません（1コリ 10：21）。



偶像は必ずしも石像である必要はありません。

私たちはほとんどあらゆるものを

偶像にしてしまうことができます。

あなた自身の人生において、もしあるとすれば、
どんな偶像から逃れる必要があるでしょうか。

偶像礼拝を克服する

1 コリント 10:23-33 (すべてのことを、神の栄光のためになさい)

だから、飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである。(1 コリント 10:31)

「すべてのことは許されている。しかし、すべてのことが益になるわけではない」 (1コリ 10:23)。
具体的な例を二つ挙げます：



その肉屋では、偶像に捧げられた肉とそうでない肉の双方が売られていました。信者は、そうした種類の肉を食べることが禁じられていると考えているような印象を与えないよう、その肉の由来について尋ねてはなりませんでした (1コリ 10:25)。

ある不信者が、信者を食事に招待しました。その信者は何の疑問も抱かずに食事をしました (彼にとっては、すべてが許されているからです)。しかし、もてなした人が、その肉が偶像に捧げられたものだと告げるなら、その人の良心 (救い) のために、その肉を食べ続けるのは適切ではありません (1コリ 10:27-29)。



これらの指針の根底にある基本原則もまた二つあります。すなわち、あらゆる事において神を賛美すること (1コリ10:31)、そして他者の益を求め続けること (1コリ10:24、32) です。

つまり、何よりも神を愛し、隣人を自分自身のように愛することである (イエスが裕福な青年に求めたのと同じように)。

どうすれば、隣人を自分のように
愛せるようになるのでしょうか。

使徒パウロは、コリント人に命じて、「だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい」と言った。もし彼らがおごり高ぶって、自分をたのみ、目をさまして祈ることを怠るならば、重大な罪におちいり、神の怒りを自分たちの身に招くのであった。[...]

パウロは兄弟たちに、彼らの言行の影響についての反省を促し、たとえ、どんなにその事自体は誤っていないように思われても、偶像礼拝を是認したり、あるいは、信仰の弱い者の良心を傷つけたりするようなことは、何ひとつしないようにと勧告した。「だから、飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである。ユダヤ人にもギリシヤ人にも神の教会にも、つまずきになってはいけない」。